

十日町市博物館 年報

— 第 4 号 —



平成 29 年度

刊行にあたって

当館は昭和54年（1979）の開館以来、「妻有地方の自然と文化」をテーマに掲げ、「雪」と「織物」と「信濃川」を柱に、博物館友の会と車の両輪のごとく協力して活動をしてきました。その中で、重要文化財「越後縮の紡織用具及び関連資料2,098点」（昭和61年指定）、同「十日町の積雪期用具3,868点」（平成3年指定）、すばらしい造形美を誇る火焰型土器を含む国宝「新潟県笹山遺跡出土深鉢形土器57点（附871点）」（平成11年指定）を生み出しています。また、展示もこれまでに増築およびリニューアルを行い、三つの常設展示室をもつにいたりしました。

現在、当館では2020年6月のオープンを目指して、新博物館建設事業を進めており、平成29年9月に建設工事に着手しました。本書をご高覧いただき、ご指導とご鞭撻いただければ幸いです。

十日町市博物館

目 次

I 館の運営	1
1. 来館者の状況	1
2. 博物館協議会	2
3. 予 算	3
II 事業の概要	4
1. 教育普及・展示事業	4
2. 新博物館建設事業	7
3. 縄文文化発信事業／縄文・里山文化による誘客促進事業	10
4. 資料の収集・貸出	11
5. その他の事業	13
III 調査・報告	14
・特別寄稿「火炎土器と水煙土器にみる縄文人の交流」 今福 利恵（山梨県埋蔵文化財センター）	14
・館蔵資料報告「珠洲焼 壺」 菅 沼 亘（学芸員）	17
IV 博物館友の会	18
附編 これまでに開催された博物館講座	19

例 言

1. 本書は、十日町市博物館の平成29年度・事業報告である。
2. 特別寄稿（夏季企画展の講演要旨）として、今福 利恵氏より玉稿を賜った。
3. 本書に掲載されている写真の無断掲載（転載）を禁じる。すべての著作権は十日町市博物館と撮影者・提供者に帰属する。
4. 本書の編集は菅沼 亘（学芸員）が行った。原稿の執筆は職員で分担し、文末に氏名を明示した。
5. 本年度の事業を行うにあたり、関係諸機関および多くの皆様から多大なるご協力をいただいた。個々に名前を記すことはできないが、お礼申し上げる。
(表紙写真：市街地上空から見た信濃川)

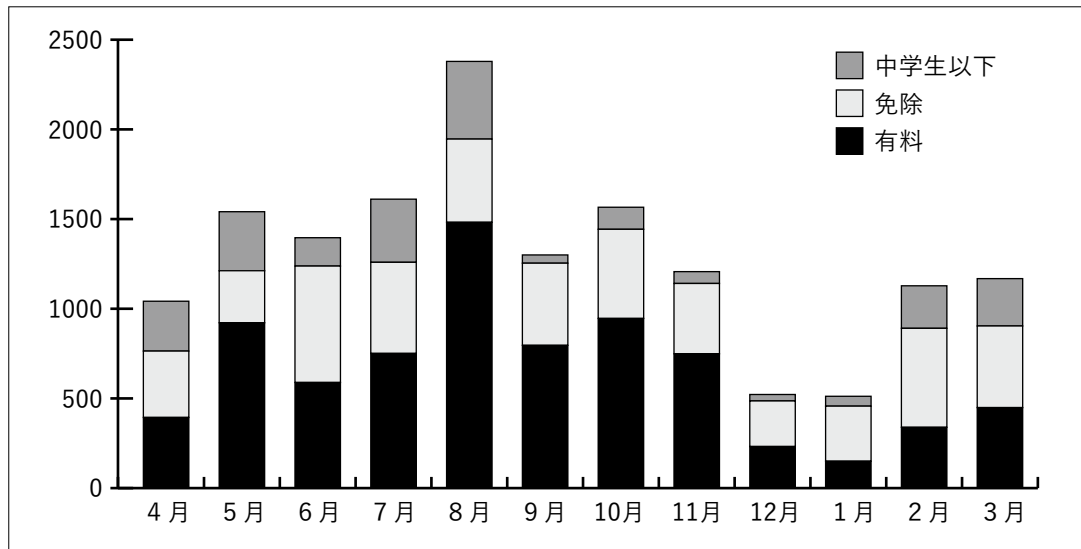
I 館の運営

1. 来館者の状況

①月別の推移

来館者数の月別推移は、以下のとおりである。中学生以下は無料、高校生以上が有料となっている。

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
一 有 料	394	922	589	751	1,482	796	946	749	232	150	339	449	7,799
般 免 除	370	290	649	508	464	458	497	392	254	307	552	455	5,196
中学生以下	278	329	158	352	433	46	123	66	36	55	237	264	2,377
合 計	1,042	1,541	1,396	1,611	2,379	1,300	1,566	1,207	522	512	1,128	1,168	15,372



月別来館者数一覧

②団体と視察の受け入れ状況

入館料減免申請書や博物館視察・見学・研修依頼書、電話により受け入れた団体について、小学校25校、中学校3校、その他の64団体に分けて以下に示す。(引間 佳子)

	小 学 校 名
1	南魚沼市立五日町小 (6年)
2	南魚沼市立三用小 (6年)
3	魚沼市立堀之内小 (6年)
4	南魚沼市立第2上田小 (6年)
5	十日町市立十日町小 (6年)
6	南魚沼市立北辰小 (6年)
7	十日町市立水沢小 (6年)
8	十日町市立上野小 (3・6年)
9	上越市立大島小 (5・6年)
10	十日町市立飛渡第一小 (6年)
11	十日町市立西小 (1・2・3・6年)
12	柏崎市立北鯖石小 (6年)
13	津南町立津南小 (6年)

	小 学 校 名
14	南魚沼市立菰神小 (6年)
15	十日町市立鑑島小 (6年)
16	十日町市立松之山小 (支援学級)
17	上越市立三郷小 (6年)
18	十日町市立下条小 (2・3年)
19	十日町市立田沢小 (3年)
20	十日町市立東小 (3年)
21	小千谷市立小千谷南小 (3年)
22	十日町市立貝野小 (3・4年)
23	十日町市立川治小 (3年)
24	十日町市立中条小 (3年)
25	十日町市立吉田小 (3年)

	中 学 校 名
1	十日町市立中条中 (1年・特別支援学級)
2	上越市立大島中
3	十日町市立川西中 (1・3年)

小・中学校一覧

	団 体 名		団 体 名		団 体 名
1	高崎吉町レクリエーションクラブ	23	いきがい大学	45	多摩・栃木
2	前橋市上川淵地区郷土民俗資料館友の会	24	下田郷土史研究会	46	縄文女子ツアー
3	東京十日町会	25	明治大学博物館友の会	47	十日町・秦野中ロータリークラブ
4	一般社団法人 大森青色申告会	26	安曇野市豊科郷土博物館友の会	48	東日本高速道路(株)
5	新潟北ライオンズクラブ	27	世田谷区民応援団	49	東海村役場
6	栃木県那珂川町文学歴史散歩の会	28	奈良学友会関東支部	50	大人の休日倶楽部
7	新潟市つくし工房	29	チャレンジ夢クラブ	51	読売旅行
8	かみつけの里博物館友の会	30	川西分校	52	南魚沼市
9	特別養護老人ホーム七川荘	31	台湾訪問団	53	広島県なぎさ高校
10	教育センター	32	長野市立博物館友の会	54	リトルハウス
11	シナノキプロジェクト	33	株式会社 大鉄工務店清友会	55	やまて交流
12	岩室民俗資料館	34	新退教	56	火焰街道バスツアー
13	博学連携学習会	35	アンデス合奏団	57	心水塾
14	荒川区高齢者クラブ連合会	36	柏崎茨目老人クラブ	58	八木橋カトレア会
15	常陸大宮市議会	37	燕地区更生保護女性会	59	文京区学院大学
16	平成園	38	大田借地組合	60	青山きもの学院
17	三島市議会	39	ニ八会	61	天理高校
18	信越交流づくり	40	江別土器の会	62	所沢市バス旅
19	あんしんワーク	41	小林同姓会	63	ラポートトラベルセンター
20	小樽市ライオンズクラブ	42	縄文を楽しむ会	64	観光コンシェルジュ
21	新潟大学留学生	43	八割老寿会		
22	千曲川議連	44	小出高校川西分校支援学級		

その他の団体一覧

2. 博物館協議会

協議会は年2回開催し、各回の詳細は以下のとおりである。委員は10名で、平成25年度からその一部を公募している。

第1回 平成29年8月22日(木) 13:30～15:00

- ・博物館の概要と平成29年度事業について
- ・新博物館建設について

第2回 平成30年3月26日(月) 13:30～15:00

- ・平成29年度事業実施状況について
- ・新博物館建設状況について
- ・平成30年度事業計画について

(山田 和志)

氏 名	職業・所属団体(役職など)	備 考
星 名 信 昭	十日町市博物館友の会 会員	委員長、社会教育
市 村 正 史	十日町市文化協会連合会 副会長	副委員長、社会教育
小 林 圭 介	十日町市立西小学校 校長	学校教育
池 田 正 義	十日町市教育センター 嘱託指導主事	学校教育
長谷川 吉 徳	十日町青年会議所 副理事長	社会教育
田 村 真奈子	十日町市立十日町小学校 PTA副会長	家庭教育
月 岡 晴 美	十日町市立中条小学校 PTA幹事	家庭教育
蕪 木 健 一	保険業	公募
門 脇 洋 子	主婦	公募
阿 部 美記子	伊乎乃の里・縄文サポートクラブ	公募

(順不同・敬称略)

博物館協議会委員一覧(任期:平成29年4月1日～平成31年3月31日)

3. 予 算

平成29年度の予算は以下のとおりである。

(黒田 朋美)

歳入予算

(単位：千円)

款	項	目	節	説 明	当初予算額	補正額	補正後予算額
13款	使用料及び手数料	1項	使用料	7目	教育使用料		
5.	博物館入館料	5.	博物館入館料		1,950	0	1,950
13款	使用料及び手数料	1項	使用料	7目	教育使用料		
5.	博物館入館料	10.	施設使用者使用料		33	0	33
20款	諸収入	5項	雑入	2目	雑入		
7.	教育雑入	1.	私用電話料		1	0	1
20款	諸収入	5項	雑入	2目	雑入		
7.	教育雑入	2.	私用コピー使用料		1	0	1
20款	諸収入	5項	雑入	2目	雑入		
7.	教育雑入	3.	施設使用者電気料		33	0	33
20款	諸収入	5項	雑入	2目	雑入		
7.	教育雑入	70.	古文書講座資料代		40	0	40
20款	諸収入	5項	雑入	2目	雑入		
7.	教育雑入	98.	その他雑入		1	68	69
21款	市債	1項	市債	8目	合併特例事業債		
7.	教育債	62.	新博物館建設事業		609,800	△2,700	607,100

歳出予算

(単位：千円、千円未満切り上げ)

節		当初予算額	補正額	補正後予算額
1. 報 酬	博物館協議会委員	110	0	110
2. 給 料	一般職給料	5,000	0	5,000
7. 賃 金	臨時職員賃金、調査整理補助員賃金	1,517	0	1,517
8. 報償費	講師謝礼・指導者謝礼ほか	424	0	424
9. 旅 費	費用弁償・普通旅費	1,135	430	1,565
11. 需要費	消耗品費・燃料費・食糧費・印刷製本費・光熱水費・修繕料	9,509	108	9,617
12. 役務費	通信運搬費・手数料・保険料	2,509	130	2,639
13. 委託料	新博物館建築工事監理業務委託・館維持管理・収蔵物移転整理ほか	38,033	△2,800	35,233
14. 使用料ほか	テレビ受信料・コピー機リース・収蔵品管理システム利用・自動車レンタル	1,017	0	1,017
15. 工事請負費	施設整備・改修工事ほか	614,335	△108	614,227
19. 負担金ほか	日本博物館協会ほか負担金	46	0	46
27. 公課費	自動車重量税	25	0	25
計		673,660	△2,240	671,420

事業別歳出予算内訳

(単位：千円、千円未満切り上げ)

事業名	当初予算額	補正額	補正後予算額
一般経費	1,563	0	1,563
国宝発信事業	408	0	408
博物館施設維持管理（除排雪経費含む）	11,712	0	11,712
新博物館建設事業（合併特例債）	641,900	△2,800	639,100
新博物館建設関連事業	1,347	0	1,347
教育普及・展示事業	2,417	0	2,417
資料収集・調査研究・資料保存対策事業	674	0	674
縄文文化発信事業	13,639	△10,956	2,683
縄文・里山文化による誘客促進事業（地方創生推進・縄文発信）	0	11,516	11,516
計	673,660	△2,240	671,420

II 事業の概要

1. 教育普及・展示事業

①教育普及事業

博物館講座

本講座は市民を対象としたもので毎年6月に行われ、平成26年度は「石仏」、平成27年度は「火焰型土器」、平成28年度は「野首遺跡土器の魅力」、本年度は「郷土の遺産 雪」がテーマである。各回の演題と講師は以下のとおりであり、全3回で計83人の受講者があった（受講料無料）。

第1回：6月10日(土) 「北越雪譜を著した鈴木牧之」

貝瀬 香 氏（南魚沼市図書館）

第2回：6月17日(土) 「北越雪譜に見る雪国の暮らし」

笛木 孝雄 氏（南魚沼市文化財保護審議会 会長）

第3回：6月24日(土) 「雪国の行事と食文化」

大楽 和正 氏（新潟県立歴史博物館 主任研究員）



講座の様子

古文書入門講座

本講座は古文書解読の初心者を対象としたもので、市内の史料をテキストにして古文書に親しむと共に、郷土の歴史を学ぶことを目的としている。昨年度に続き、講師は林 悦郎氏（博物館友の会・古文書研究グループ）にお願いした。今年度は「村方様子書上帳」、「村差出明細帳」、「検地帳」、「御仕置五人組帳」などをテキストとしている。講座は6～3月の土曜日（隔週・午前）に行われ、回数は全17回である。今年度の受講生は計15人、内5人が新規の申し込み、その他は昨年度からの継続であった。また、受講生よりテキスト代（2,500円）を徴収している。

子ども博物館

本事業は、市内の小学4～6年生を対象とした体験教室である。今年度は以下のとおり、縄文体験を全3回実施した。各回とも定員10名（事前申込）、参加費（材料費）を徴収し、保護者（参加費不要）も参加可能としている。土器の発掘体験では、衣類収納用ボックスに土を入れ、その中に埋めた模造土器片を掘り出すという疑似体験を行った。また、オーブンで温めると縮むプラバンを使用して、火焰型土器のキーホルダーを作っている。どんぐりクッキーづくりでは、石皿と磨り石でクルミの実を粉にする体験も合わせて行った。

・8月5日(土) 土器の発掘体験とキーホルダーづくり（参加者：12人）

・10月7日(土) 火焰型土器の土版と埴輪づくり（参加者：12人）

・12月9日(土) どんぐりクッキーづくり（参加者：3人）



土器の発掘体験



埴輪づくり



どんぐりクッキーづくり

②展示事業

夏季企画展「野首遺跡出土品のすべて」

本展は、博物館友の会と信濃川火焰街道連携協議会との共催で開催された。会期は7月22日(土)～8月27日(日)の37日間、観覧者数は計2,878人である。

野首遺跡は、平成8年(1996)に発掘調査された縄文時代中・後期の集落跡で、土器捨て場から火焰型・王冠型土器を含む大量の遺物が出土した。平成29年3月には、出土品1,431点が十日町市指定文化財に指定され、本展はこれを記念して行われている。

展示構成は、①野首遺跡の概要、②縄文人の道具箱、③他地域の土器、④火焰型・王冠型土器、⑤地元の土器である。①は発掘調査の成果を解説し、②で



企画展会場

は石器類と土製品類を展示している。③は東北・北陸・関東・中部地方など、周辺地域からの影響が見られる土器を紹介した。④では、復元された火焰型土器11点と王冠型土器8点を一堂に並べている。⑤は火焰型土器と同時期の信濃川流域に見られる土器を展示した。また、7月29日(土)の午後には、今福利恵氏(山梨県埋蔵文化財センター)を招いて、記念講演会「火炎土器と水煙土器にみる縄文人の交流」を開催し、50人の聴講者が参集した。



企画展のポスター

秋季特別展「動物の意匠―人と生き物のかかわり―」

本展は、博物館友の会と信濃川火焰街道連携協議会との共催で開催された。会期は9月30日(土)～11月5日(日)の37日間、観覧者数は計2,028人である。

時代を問わず、遺跡から出土した考古資料の中には動物をかたどった意匠をもつものがあり、それは土器の文様や把手・突起、土製品等として表現されている。本展では、縄文時代から中世までの動物意匠をもつ資料を周辺地域から集め、人と生き物のかかわりについて紹介した。展示構成は、①水中の生き物、②陸の生き物、③空の生き物である。①では、海と川に生息する生き物を表した土製品や装飾をもつ土器を展示した。②は縄文時代中期のイノシシやヘビを



特別展会場

モチーフにした突起・文様をもつ土器を中心に、古墳時代の犬・猪・馬形埴輪も紹介している。③では、縄文時代後期のトリ形把手付土器、古墳時代の鶏形埴輪等を展示した。また、10月28日(土)午後には新津健氏(元山梨県埋蔵文化財センター所長)を招いて、記念講演会「中部高地の動物装飾付土器と火焰型土器―イノシシ・ヘビ造形を中心に―」を開催し、27人の聴講者が参集した。また、図録をミュージアムショップで有料頒布している。



特別展ポスター

巡回展「縄文の造形美―六反田南遺跡―」

本展は、新潟県埋蔵文化財センターの企画展を同センターから始まりその後、県内3会場で巡回したものである。当館では7月8日(土)～8月27日(日)に開催され、会期中の観覧者数は3,497人であった。展示はロビーの壁面ケースを使用した。六反田南遺跡は、糸魚川市の海岸部に位置する縄文時代中期の集落跡で、北陸地方からの影響を受けた土器が豊富に出土している。



巡回展会場

ロビー特設展示

本展示はロビー壁面ケースの有効活用とリピータの増加を図り、館蔵資料などを定期的に入れ替えて展示するものである。今年度は以下のとおり、4回実施した。

- ・4～6月 平成28年度 収集資料
- ・7～8月 新潟県埋蔵文化財センター巡回展「縄文の造形美 一六反田南遺跡一」
- ・9～11月 雪文化3館提携25周年記念展「雪と生活」
- ・1～3月 博物館に寄贈された昔の道具

移 動 展

「十日町きものまつり」に合わせて、5月3・4日(水・木)に十日町市市民活動センター「十じろう」ギャラリーにおいて、「十日町のきもの歴史展」を開催した。館所蔵の織物資料15点のほか、山内写真館資料写真等を展示し、約1,000人が来場した。また、11月5日(日)に下条中学校ランチルームにおいて、「野首遺跡出土品展」を実施した。火焰型土器を含む土器14点と石器・土製品類を展示している。



十日町のきもの歴史展

貸 館

十日町市書道協会が、6月2日(金)～4日(日)に特別展示室において書道協会展を開催した。観覧者数は152人(観覧無料)である。なお、会場使用料を免除している。(菅沼 亘)

③博学連携

信濃川中流域の縄文文化について、実物資料の見学と体験活動を通して、歴史を身近に感じながら郷土の誇れる文化を学ぶことを目的に、下記の3つの事業を柱として実施している。

主 催：火焰街道博学連携推進研究会、共 催：新潟県立歴史博物館・信濃川火焰街道連携協議会
参加校：関原小学校(長岡市)、吉谷小学校(小千谷市)、五日町小学校(南魚沼市)、下条小学校・中条小学校・鎧島小学校(十日町市) 計161名(6年生)

- ・交流学习 日時：7月3日(月)／会場：十日町市博物館・十日町市総合体育館

博物館において縄文について学習し(ミニ土器作りワークショップを行い、また、縄文時代・日本遺産について学芸員の話聞く)、その後、体育館において学校間の交流を深めた。

- ・縄文子どもフォーラム 日時：11月27日(月)／会場：新潟県立歴史博物館

児童が学習内容を発表し討議するパネルディスカッション、展示物の見学、ポスターセッションを行った。

- ・子ども縄文研究展2017 期間：1月20日(土)～2月18日(日)／会場：十日町市博物館

博学連携プロジェクトにおいて製作した児童の作品を展示した。当館の他にも、津南町農と縄文の体験実習館なじょもん、新潟県立歴史博物館に巡回している。

④まちの文化歴史コーナー

十日町市市民交流センター「分じろう」1階の「まちの文化歴史コーナー」(愛称「HAKKAKE」はっかけ)において、館蔵品を展示した。展示品と期間は以下のとおりである。(阿部 敬)

中島遺跡出土品(4/5～5/2)、国宝・火焰型土器No.5(5/3)、中島遺跡出土品(5/4～29)、十日町織物歴代標本帳(5/31～7/31)、樽沢開田遺跡出土品(8/2～9/22)、国宝・火焰型土器No.5(9/23・24)、中里地区の釜神様(9/25～11/27)、節季市とチンコロ(11/29～1/28)、スカリ・カンジキ(1/30～3/26)

⑤そ の 他

博物館実習

8月3日(木)～8月9日(水)まで実習生を受け入れた。受入れ大学と人数は、新潟大学教育学部1人、同文学部1人、新潟産業大学経済学部2人、龍谷大学文学部1人の計5人である。実習では民俗・考古資料の整理、教育普及活動の補助、受付業務、市内博物館関連施設の見学などを行っている。

職場体験

中学1・2年生の職場体験を受け入れた。受入れ中学校と期間は、十日町中学校・松代中学校・津南中学校(7月11・12日)、中条中学校(8月1～3日)である。(菅沼 亘)

2. 新博物館建設事業

①建設工事

実施設計が平成29年6月30日に完了し、図面・設計図書等の成果品が納入された。それらについて精査を行った後、入札にて施工業者を選定した。建物の建設工事は平成29年度と30年度の2ヵ年継続工事となっており、その1期目工事に着手した。なお、平成29年6月29日(木)に周辺住民向けに設計内容や工事スケジュールについての説明会を十日町情報館において行った。建物概要については以下のとおりである。

新博物館建物概要

敷地面積：5,016㎡ 建築面積：2,197㎡ 延床面積：3,107㎡

構 造：鉄筋コンクリート造／一部鉄骨造／2階建て



完成予想図① (建物正面)

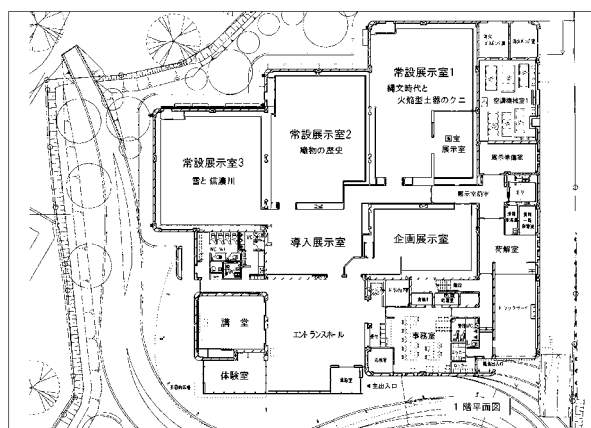


完成予想図② (上方から)

新博物館では、十日町市の特徴である「縄文時代と火焰型土器のクニ・織物の歴史・雪と信濃川」の3つのテーマにより展示を行う。建物についてもこれらの要素を取り入れた外観とした。

建物外部には雪国の特徴である雁木をイメージした通路と、信濃川をイメージした曲線状の通路を設けた。建物正面には建物を包むような大きな庇をつけ、雨天でも外で活動ができるようになっている。曲線状の庇は織物をイメージしており、雪の結晶が浮かび上がるようにデザインされている。正面外壁上部のグラフィックについては、火焰型土器の主要素である渦巻文、鶏頭冠突起、鋸歯状突起を表現したデザインとなっている。

内部の展示エリアは、3つの展示室とそれらを結ぶ導入展示室で構成されており、一筆書きで明



1階平面図

快な動線設定とした。企画展示室は公開承認施設仕様であり、他の博物館が所蔵する国宝等の国指定品を借用・展示できる環境を整える。また、現博物館には無い講堂や体験室を新たに追加した。なお、2階は会議室や収蔵庫、友の会室等の管理エリアとなっている。

工事入札

工事の入札については建築本体、電気設備、機械設備の3件の分離発注とした。「市内に本社を有している」という入札参加条件を設けた制限付一般競争入札とし、2社による特定共同企業体の共同実施方式とした。平成29年7月20日に入札公告、平成29年8月10日に開札を行い落札業者と仮契約を結んだ。その後、平成29年8月17日の臨時議会において契約の議決を経て本契約締結となった。

受注施工業者及び契約額

工事区分	受注者	契約額(税込)
建築本体	村山・サンウッド特定共同企業体 代表者 株式会社 村山土建	1,083,240,000円
電気設備	村尾・信栄特定共同企業体 代表者 株式会社 村尾電気	212,760,000円
機械設備	拓越・美佐伝特定共同企業体 代表者 株式会社 拓越	429,840,000円
工事監理	石本・阿部設計共同体 代表者 株式会社 石本建築事務所	38,772,000円

契約工期：平成29年8月17日から平成31年3月20日（2ヵ年継続事業）

工事の進捗状況

本契約締結後、建設予定地の整地を行い、平成29年9月16日に安全祈願祭を行った。



工事着手前の建設予定地



安全祈願祭



市長による鉄入れ

建物面積が広いので、基礎工事については3工区に分けての施工となった。29年度は基礎と1階床スラブのコンクリート打設までを完了させた。

平成29年11月11日 1・2工区の基礎ベースのコンクリート打設

11月29日 1・2工区のピットスラブ打設

12月16日 2工区の基礎梁、1階床スラブの打設

12月19日 1工区の基礎梁、1階床スラブの打設

12月21日 3工区の基礎打設（この後2月19日まで冬季休工）

平成30年3月下旬 3工区の1階床スラブ打設



1・2工区の基礎ベース



基礎梁・ピットスラブ配筋



1・2工区床スラブ・3工区基礎

工事スケジュール

区 分	平成29年					平成30年												平成31年		
	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
土 工	整地	掘削													外構工事					
基 礎				基礎				基礎												
軀 体								1,2階 躯体立上げ												
内部仕上														1階・2階・収蔵庫等内部仕上						
外部仕上													防水・外壁等外部仕上							
電気設備				基礎スリーブ				躯体内配管・スリーブ						配管・配線・機器取付・調整						
機械設備				基礎スリーブ				躯体内配管・スリーブ						配管・機器取付・調整						

(若月 辰則)

②展示業務委託

6月末の実施設計終了後、7月にデービッド・アトキンソン氏（株式会社 小西工藝社 代表取締役社長）より指導を受け、導入展示室の位置づけ、各展示室の演出方法、多言語対応を含む展示解説のあり方などについて見直しが必要となった。その後、8月より展示の再検討を行い、12月に再度、同氏より指導を受け、実施設計共同体内の展示設計業者と展示業務委託契約を結んだ。

常設展示室は、導入展示と3つのテーマ展示、①「縄文時代と火焰型土器のクニ」、②「織物の歴史」、③「雪と信濃川」で構成される。導入展示では、各テーマ展示を見るにあたって前提となる情報を解説する。①については「縄文時代とは」、②は「雪国の風土と織物」、③は「十日町市の気象と地形」である。また、導入展示室からの動線は強制動線とせず、来館者が興味のある展示室を各々の順番で見学する動線とした。なお、①→②→③の順番で回ると、原始（①）→古代～近世（②）→近・現代（③）というように十日町市の歴史を通史的に概観することができる。



新博物館常設展示室の構成（予定）

①は、「火焰型土器のクニ 十日町」と「縄文時代の十日町」で構成される。前者は、国宝・笹山遺跡火焰型土器群を含む館所蔵土器の優品を一堂に並べ、後者では市内出土の遺物を展示して縄文人の衣食住をわかりやすく解説する。②は「麻織物のはじまり」と「麻織物から絹織物へ」で構成され、十日町市における古代から現代までの織物の歴史を通史的に解説する。後者では、重文・越後縮の紡織用具が展示の中心となる。また、壁面ウォールケースを利用して、アンギンや越後縮、明石ちぢみから現代の着物までを一堂に展示する。③は、「大河 信濃川」と「雪国 十日町」で構成される。前者では舟運、水害、水力発電など信濃川と人々との関わりについて解説する。後者は、重文・十日町の積雪期用具を展示すると共に、現展示室の移築民家を解体・移設して雪国特有の文化を紹介する。

なお、エントランスホールでは、ホワイト地形模型へのプロジェクションマッピングによるガイダンスを行う。投影する情報は、河岸段丘の広がり、遺跡の分布などを予定している。（菅沼 亘）

3. 縄文文化発信事業／縄文・里山文化による誘客促進事業

今年度は、京都国立博物館「国宝」展への国宝・火焰型土器の出品をはじめ、大手企業とのコラボレーション企画が実現するなど、縄文文化を全国に向けて発信することができた。

①「国宝応援プロジェクト」

小学館・日清食品・JR東海・日販が協力して、「国宝」に特化した「国宝応援プロジェクト」を開始した。この記者会見（9月4日・丸の内OAZO）において、日清カップヌードルと当館の共同企画での火焰型土器「カップヌードルクッカー」制作、小学館「和楽」と「週刊ニッポンの国宝100」の特集記事で、国宝・火焰型土器が取り上げられることが発表された。

②エフエム公開生放送

9月30日（土）、当館を会場にしてミュージックバードの人気番組「あの頃青春グラフィティ」（Tokyo FM系列）の公開生放送が行われた。70名ほどの観覧者が全国から訪れ、10月の国宝展を中心に国宝応援プロジェクトなど縄文文化を全国に発信した。

③国宝・火焰型土器（指定番号1）を国宝展に出品

京都国立博物館・特別展覧会「国宝」（10月3日～11月26日）に、国宝・火焰型土器（No.1）が出品され、他館への貸出としては大英博物館以来16年ぶりとなった。会期の後半には、火焰型土器（No.6）が入れ替わりで展示（11月14～26日）されている。会期中の観覧者数は開館以来、最も多い62万人とのことである。また、長野県茅野市と山形県舟形町出土の国宝・土偶が同時に展示されることを記念して、各首長が内覧会（10月2日）に参加した。これに合わせて10月3日（火）には、青柳正規前文化庁長官をお招きして、「縄文国宝自治体首長懇談会」を京都市内のホテルで行っている。



国宝応援プロジェクト



エフエム公開生放送



京都国立博物館・国宝展（内覧会）

④「ASOBO JAPAN」

日産SERENA・Canon EOS Kiss・GAKKEN・学研キッズネット・THE NORTH FACE・クックパッド・adidasという大手企業が協力し、「日本をまるごと遊ぼう」をコンセプトに実施している「ASOBO JAPAN」（第6回）が、10月27・28日（土・日）に当市で開催された。全国からの応募が約10万人と過去最高になり、その中から選ばれた20人が参加している。棚田での新米試食やアート体験のほ

か、笹山遺跡では「縄文レストラン」が行われた。クッキングカーも配備され、復元竪穴住居内での火焰型土器（模造）を使用した「縄文なべ」が大好評であった。

⑤「縄文女子ツアー」

十日町商工会議所は、日本国中に当市の縄文文化と雪国文化を発信する全国展開プロジェクトを行っている。この一環として11月11・12日（土・日）に、女性限定の縄文文化を体験する「縄文女子ツアー」が開催された。定員20名のところ2倍以上の応募があり、遠くは佐賀県や宮城県など9割が県外からの参加である。当館で縄文時代の展示解説を聞き、笹山遺跡では実物の土器に触れる、土器型チョコやクッキーづくりを体験するなど、参加者から大きな反響があった。

⑥「縄文DOKI★DOKI！土器づくり体験プロジェクト」

平成30年1月20・21日（土・日）に、日清食品ホールディングと共同で「世界にひとつ！縄文DOKI★DOKI！土器づくり体験プロジェクト」を実施した。会場はカップヌードルミュージアム横浜である。これは同社の「百福土プロジェクト」の一つ、また、「国宝応援プロジェクト」の一環で、日本の食文化を変えた大発明である縄文土器を通して、子どもたちに日本文化への親しみや理解を深めることを目的としている。2日間で計4回の土器づくり体験に、親子200名以上が参加した。その後、「十日町雪まつり」（2月）の際に横浜から来館し、国宝・火焰型土器を見学した参加者の家族もあった。



ASOBO JAPAN



縄文女子ツアー



土器づくり体験プロジェクト

⑦国宝・火焰型土器（指定番号1）の高精細レプリカ製作

平成28年度に東京国立博物館との共同研究で実施した3次元計測のデータを使用して、実物とほぼ同じ大きさ・重量の高精細レプリカを製作した。作業を委託した大塚オーミ陶業(株)は、平成29年度「第7回ものづくり日本大賞」の内閣総理大臣賞を受賞し、キトラ古墳壁画や弘法大師坐像の複製など、陶板の特殊技術による「触れる文化財」製作において高い評価を得ている。この国宝・火焰型土器レプリカは、「触れる国宝」として新博物館での展示や各種の教育普及事業において活用する予定である。

（佐野 誠市）



国宝の高精細レプリカ製作

4. 資料の収集・貸出

①資料の寄贈

博物館では、市民から資料の寄贈を受けている。今年度は、以下のとおり21件の寄贈を受けた（受付番号14994～15014・平成30年2月28日現在）。

14994（イットマスほか）、14995（棒バカリ）、14996（赤岩小学校歌資料）、14997（マジョリカお召ほか）、14998（昔の新聞）、14999（梵字Tシャツ）、15000（岩石・鉱物標本）、15001（ジザイカギほか）、15002（屏風）、15003（屏風）、15004（硯ほか）、15005（巾治家資料）、15006（モンペほか）、15007（雪ゲタほか）、15008（イットマス）、15009（古文書・古典籍）、15010（書籍）、15011（ザグリ機ほか）、15012（版本ほか）、15013（駕籠ほか）、15014（屏風）

②実物資料の貸出

資料の貸出状況は以下のとおり、考古資料8件（レプリカ含む）である。特に、国宝・笹山遺跡火焰型土器（指定番号1）の京都国立博物館「国宝展」への出品は、平成13年の文化庁海外展「古代日本の聖なる美術」（大英博物館）以来、16年ぶりの館外への貸し出しとなった。（菅沼 亘）

貸 出 先	資 料 名 (点数)	目 的 (展覧会名・会期など)
浅間縄文ミュージアム	幅上遺跡土器・焼成粘土塊16点／森上遺跡土器4点 計20点	企画展「縄文の技と美」(4/29～8/31)
馬高縄文館	大井久保遺跡土器2点／麻畑原B遺跡土器2点 計4点	夏季特別展「東北の土器と火炎土器Ⅰ」(7/22～9/3)
津南町農と縄文の体験実習館 なじよもん	中林・田沢・原水無・中田B・中田D・干溝・久保寺南・本ノ木遺跡資料 計151点	秋季企画展「本ノ木－調査・研究の歩みと60年目の視点－」(9/2～11/5)
長野県立歴史博物館	野首遺跡土器4点	秋季企画展「進化する縄文土器」(9/16～11/26)
京都大学総合博物館	国宝・笹山遺跡火焰型土器 (No.8)・三角形土版・三角とう形土製品16点／笹山遺跡深鉢形土器1点／野首遺跡土器7点／小坂遺跡土器1点／幅上遺跡土器2点／南雲遺跡大珠3点／ぼんのう遺跡石棒・三角とう形土製品2点／小坂遺跡三角形土版・三角とう形土製品11点／カウカ平遺跡土偶2点／大井久保遺跡土偶1点 計46点	特別展「火焰型土器と西の縄文 ジョーモネスクジャパン2017」(9/9～10/22) 主催：京都大学総合博物館・信濃川火焰街道連携協議会・新潟県立歴史博物館
京都国立博物館	国宝・笹山遺跡火焰型土器2点 (No.1・6)	特別展覧会「国宝」(10/3～11/26)
カップヌードルミュージアム横浜	国宝・笹山遺跡火焰型土器 (No.1) レプリカ1点	土器づくり体験プロジェクト (1/21～22)
北海道環境生活部文化スポーツ局 文化振興課 世界遺産推進室	国宝・笹山遺跡火焰型土器 (No.1) レプリカ1点	「縄文雪まつり」(2/5～10)

実物資料の貸出一覧

③写真資料の貸出

写真資料の貸出件数は計157件（3月20日現在）、主な貸出状況は以下のとおりである。例年どおり、国宝・笹山遺跡出土火焰型土器をはじめとする考古資料が9割以上を占めている。その他には、越後布で仕立てた袷袋、雪室などがある。使用目的では教材やテストなど教育関連が最も多く、TV番組での使用が増加した。（引間 佳子）

貸 出 先	出 版 物	貸 出 資 料	備 考
株式会社 シュヴァン	京都造形芸術大学『芸術史講義』	国宝・笹山遺跡火焰型土器	大学講義資料
日本教材システム 株式会社	『2017年度 追手門学院大学 入学試験問題集』		高校問題集
株式会社 ベネッセコーポレーション	『2017年度 夏の特別Challenge 中1/8月号/共通』		中学校問題集
株式会社 Z会	『中学受験コース』		小学校問題集
栃木連合協会	『夏休みの友 6年』		小学校問題集
株式会社 宝島社	『TJMOOK 国宝への誘い』		
株式会社 小学館	『和楽 10・11月号』		
株式会社 いきもん	布製ポーチ		カプセルトイ
NHK	『北斎展&国宝展 開催記念 びじゅチューン！井上涼のニッポン美術祭り』		イベント
	『歴史秘話 ヒストリア 国宝』		TV番組
八海醸造 株式会社	リーフレット	雪室（大関義男氏撮影）	
株式会社 敬文舎	『縄紋時代史1』	信濃川・清津川合流地点	
株式会社 アム・プロモーション	『縄文カレンダー 2018』	干溝遺跡 隆起線文土器	
戎光祥 株式会社	『上杉謙信』	越後布で仕立てた袷袋	

写真資料の貸出一覧（主要なもの）

5. その他の事業

①雪文化3館提携事業

十日町市博物館・南魚沼市トミオカホワイト美術館・鈴木牧之記念館は、雪の力、雪の美しさ、雪文化遺産の多様性と素晴らしさを広く知ってもらうため、平成4年に姉妹館提携をしている。

今年度は提携25周年を迎えることから、それぞれの館の資料を借用してロビー特設展示を実施した。当館では、南魚沼市トミオカホワイト美術館から富岡惣一郎氏の絵画「信濃川・卯の木D」F60、鈴木牧之記念館から「北越雪譜」挿絵の「山中異獣の図」パネルを借用し、当館所蔵の国指定重要民俗文化財「十日町の積雪期用具」3,868点の中から「雪と生活」の展示を行った。また、南魚沼市トミオカホワイト美術館には「山内写真館写真資料5点」、南魚沼市トミオカホワイト美術館には「越後縮裂見本帳」をそれぞれ貸し出した。



提携25周年記念展会場



重文・積雪期用具



展示解説

②絵画コンクール「火焰型土器を聖火台に!!」

当館では、「2020東京オリンピック・パラリンピック」に向けて、「国宝・火焰型土器」を聖火台のモチーフとして採用してもらうようPR活動を行っている。そのひとつとして、平成29年7月18日(火)～8月23日(水)まで、絵画コンクール「火焰型土器を聖火台に!!」の作品募集を行った。8月28日(月)に新潟県立近代美術館副館長の丸山実先生から審査いただき、応募総数55点の中から一般部門最優秀賞1点・優秀賞2点、ジュニア部門最優秀賞1点・優秀賞2点の計6点を選定していただいた。また、応募作品全55点を「東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会」に送付し、「火焰型土器を聖火台に!!」のさらなるアピールを行った。

(山田 和志)



絵画コンクール受賞作品

③資料保存対策事業

館内収蔵庫資料の管理・保存作業として、除湿剤の入替え、着物資料の点検・洗浄、寄贈資料の受入れなどを実施した。

④国宝発信事業

博物館公式ホームページの維持管理、新規項目の追加、英語ページの作成を実施した。また、TOPページ>情報アーカイブズ>指定文化財にある、各文化財に画像、地図、詳細情報を順次追加し、文化財の周知を行っている。

(阿部 敬)

III 調査・報告

特別寄稿

火炎土器と水煙土器にみる縄文人の交流

山梨県埋蔵文化財センター 今 福 利 恵

はじめに

日本を代表する縄文土器といえばやはり火炎土器がその筆頭にあがり、考古学的な価値を超えた芸術的な造形は今や国宝、日本遺産として知られるところとなっている。この火炎土器は、しっかりと文様構造によって厳密に統一されている。まさに確固たる社会規範があったといえる。新潟で火炎土器がにぎわっていたころ、南の山々を越えた果てに、水煙を思わせる渦巻が絡みあった把手をもつ「水煙渦巻文深鉢」土器が広がっていた。すなわち水煙土器である。火炎土器とは違った動的な美しさをもっている。火炎土器と水煙土器は、中部地方の甲信越地方で北と南に地域を隔てて分布しており、それぞれ造形的にも違う土器なのだが、その文様構造という点では意外にも共通するところがある。地域も造形も違う土器に隠れた共通性をさぐってみたい。ここでは「火炎土器」にたいして「水煙土器」と呼んでおく。

1. 火炎土器の時代

火炎土器は縄文時代中期中葉に新潟を中心として広がる土器で、伴うのは東北地方南部の大木8 a式、8 b式土器に類似する土器である。広く大木式土器様式圏にあるものと思われる。大木式土器は、縄文施文され口縁部の横S字文、クランク文、剣先文様を特徴として東北から北関東まで広範囲にみられる。西の北陸地方には、上山田・天神山式土器という半隆起線による大きな渦巻文を特徴とする曲線文様の土器が広がる。火炎土器はこれら大木式土器を基本にして文様表現を上山田・天神山式土器によっている。南側の中部高地には、勝坂式土器が長野中南信から山梨、西関東を中心に広がる。勝坂式土器には人面・人体表現や猪、蛇などの動物が描かれており、縄文土器の中でもっとも文様に精神世界を表現している。水煙土器は、この勝坂式土器の終末期にはじまり、次期の曾利式土器期にはいつて完成するが、すぐに消えてしまう。火炎土器が存在していた中頃にしか並行しない。

2. 火炎土器の文様

火炎土器には火焰型土器と王冠型土器の2種類がある。火焰型土器は鶏頭冠把手や鋸歯状のフリルがつく平口縁の土器である(図1)。王冠型土器は大きな短冊形の把手が特徴の波状口縁となる土器で、鋸歯状フリルはつかない(図3)。両者は把手の形以外は同じ文様構成となる。横方向には2段の文様構成であり、縦方向には把手を基準にして4分割している。把手下には眼鏡状突起が、把手間の口縁部直下には袋状突起がつく。こうした特徴はワンパターンと思えるほど厳密に守られており、いわば社会規範として共有されているといえる。ただし分割された区画内の渦巻文には、向きや上下などいろいろな組み合わせがある。これが火炎土器の唯一といってよい個性となっている。

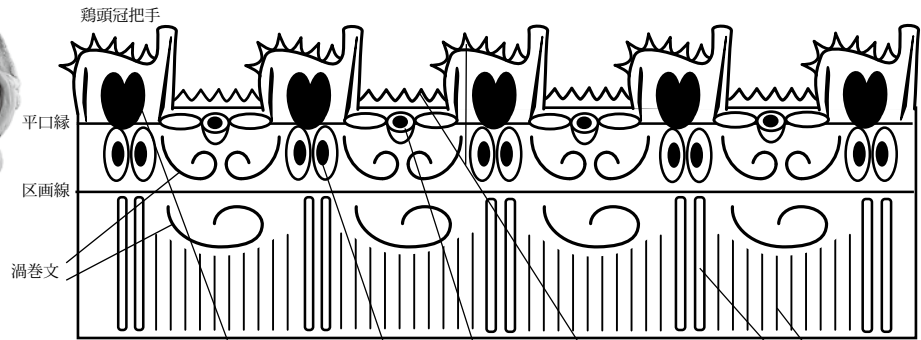
3. 水煙土器とは

中部地方の縄文中期を代表する土器のひとつで、口縁部から円環を重ね合わせて立ち上がる大きな把手が特徴である。昭和35年に八ヶ岳山麓の長野県曾利遺跡で全体がわかる水煙土器が発見された。藤森栄一は、調査報告の中で「水煙状に巻き上がる渦巻状の大把手」がつくものと、はじめて「水煙」ということばを使った。また「水煙形土器」について、日本美術史のあけぼのはこの土器と新潟県馬高の「火焰形土器」の造形から始まると、新潟の「火焰」に対比して「水煙」という名称を意識して使っている。そして新潟の火炎土器に匹敵する土器として考古学的な価値以上に美術的にも評価されていた。水煙土器は、同じ時期でも出土しない遺跡もあり、あっても数個体あれば多いほうで、実はとても希少性が高い。しかも火炎土器が約4,800年前までのほぼ500年間にわたって存在しているのに、

火焰型土器



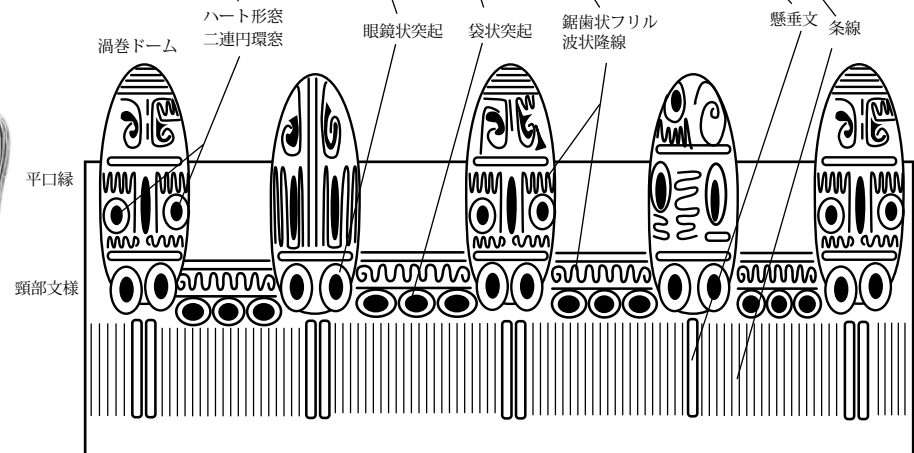
1
十日町市野首遺跡



渦巻ドーム系水煙土器



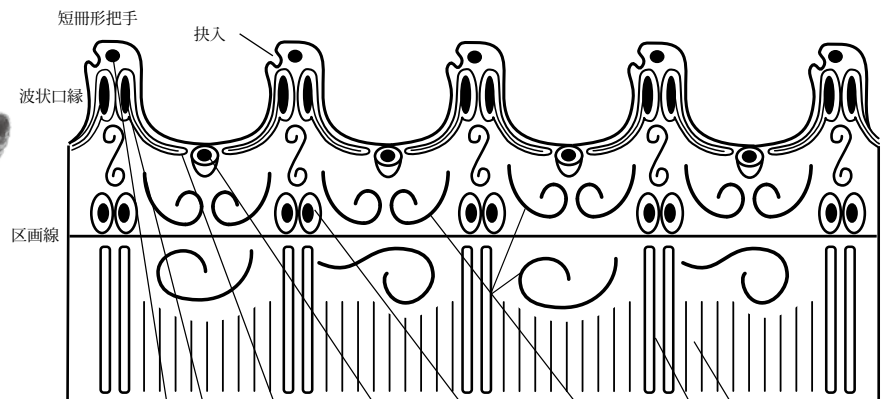
2
山梨県甲府市上野原遺跡
山梨県立考古博物館蔵



王冠型土器



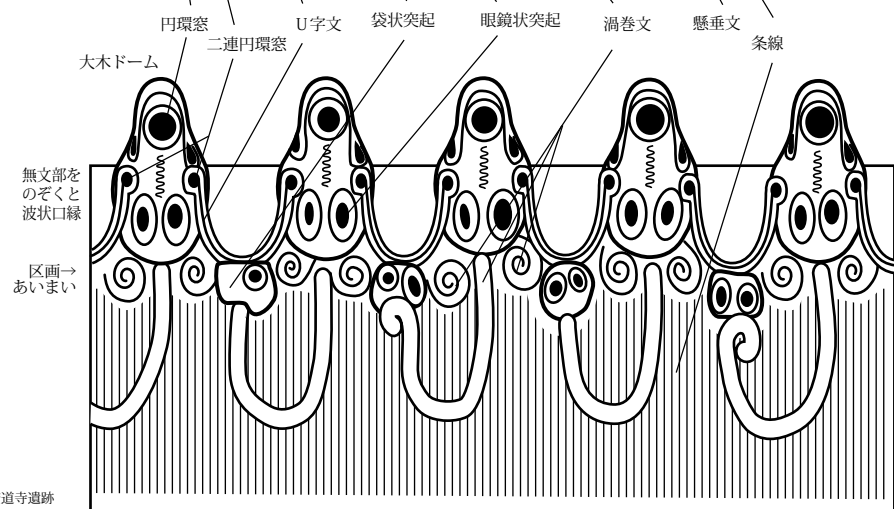
3
十日町市野首遺跡



大木ドーム系水煙土器



4
山梨県甲州市安道寺遺跡
山梨県立考古博物館蔵



火炎土器と水煙土器の文様比較（撮影：小川忠博）

水煙土器はひじょうに短命でこのうちの約200年間だけにしかみられないのである。

4. 水煙土器の文様

水煙土器は大きく分けると大木式土器に系譜をもつ大木ドーム（円環系）の把手をもつ水煙土器（図4）と在地の勝坂式土器からでてくる渦巻ドームの水煙把手をもつ土器（図2）の2種類がある。大木ドーム系水煙土器は円環を縦に重ねた中空の把手をもち、把手間は無文だがU字文でつながり、袋状突起がつく。把手の下には左右に渦巻文が配される。大木ドーム系水煙把手に円環がさらに重なるものを円環系水煙土器といい、同じ系列にある発展形ととらえることができる。勝坂式土器終末期に少数だが広くみられる大木式土器から発展して曽利式期に成立したことがわかっている。

渦巻ドーム系水煙土器は、眼鏡状突起の上に円環を重ねた中空把手でその頂部が尖った渦巻文となるのが特徴である。また把手間は無文で頸部に波状隆線や中空の円環文が並ぶ。勝坂式土器終末期の在地土器である渦巻文長胴甕の文様を立体化させることで曽利式期に成立する。両者とも胴部は同じで、条線が地文となり、把手を基準に縦の隆線で分割され、間にJ字形の懸垂文がつく。

大木ドーム系水煙土器は勝坂式土器圏内に広く分布するが、渦巻ドーム系水煙土器は八ヶ岳山麓から甲府盆地だけとかなり分布範囲がせまい。また大木ドーム系と渦巻ドーム系水煙土器が共存する遺跡は少なく、数えるほどしかない。両者はそれぞれの系譜や分布、遺跡でのあり方が異なっている。

5. 火炎土器と水煙土器の共通性

火炎土器に火焰型土器と王冠型土器があるように、水煙土器にも大木ドーム系水煙土器と渦巻ドーム系水煙土器の2種類がある。文様構造という視点からみると火炎土器と水煙土器はよく似ているところがある。火焰型土器は渦巻ドーム系水煙土器の文様構造に対応しており（図1と2）、水煙土器の無文部をのぞけば平口縁になること、鶏頭冠把手と渦巻ドーム系水煙把手とでは形態が異なっているものの把手が眼鏡状突起から立ち上がること、口唇部の火焰のような鋸歯状フリル・袋状突起・U字文は水煙把手間の波状隆線・中空円環文列と同じ配列であること、などが共通している。そして王冠型土器と大木ドーム系水煙土器も（図3と4）同じように、水煙土器のU字形無文部をのぞくと王冠型土器と同じ波状口縁になること、把手が眼鏡状突起から立ち上がること、把手間に袋状突起をもつこと、袋状突起と把手の円環窓がU字文で連結すること、把手下の左右に渦巻文をもつなど、こちらも共通する特徴が多い。しかし異なる特徴もある。火炎土器の文様体は上下二段に分かれるが、水煙土器は区画があいまいになっていること、火炎土器は配置される渦巻文に個性があるが、水煙土器は渦巻文よりむしろ把手形態に個性が強いこと、などははっきり違っている。

火炎土器は火炎土器として、水煙土器は水煙土器としてそれぞれしかりとした文様構造をもっており、それは社会規範となって地域社会で共有しているものといえる。火炎土器と水煙土器は一見して異なったものであることは明白である。しかしその文様構造は意外にも共通しているところが多々みうけられるのである。表面的には異なっているでも文様構造が共通する土器型式は、地域的に離れていようと同一社会規範をもっているといえる。時間的には火炎土器が先行しているので水煙土器が新潟方面から文様構造を受け入れたと考えられる。勝坂式土器終末期に少数ながら広がっていた大木式土器を媒介にしている可能性がある。火炎土器も水煙土器も大木式土器をベースにして成り立っているので潜在的に共通しているのか、あるいは火炎土器から直接的な影響のもと水煙土器だけに文様構造を取り入れたのか、まだよくわからない。そこには物質だけでは測れない交流がかくされている。一時的ではあるにしろ、共通する文様構造は単発的な一回性ではなく、繰り返される社会規範となっていることから強い結びつきがあることはわかる。しかしそれは一方的な片想いを受け入れても、はかなく潰えてしまったものなのだろうか。まだ臆中である。

本稿は夏季企画展記念講演会の内容をもとにしているが、宮尾亨氏から火炎土器と水煙土器の文様構造が同じである旨の指摘により、追記した。さらに検討の余地は多いが重要な視点だと考えている。

珠洲焼 壺

菅 沼 亘 (学芸員)

ここで紹介する珠洲焼の壺は、市内大黒沢地内の水田の畔にある「大黒沢・正平在銘梵字碑」の下から発見された骨蔵器である。なで肩で胴長の体部に、やや直立して立ち上がり端部が突出する短い口縁が付く。器面には、平行と斜め方向のタタキ目が一列おきに残る。焼成は普通で、胎土は灰褐色を呈している。法量は、器高31.5cm、口径11.5cm、胴径24.0cm、底径10.0cmを測る。

この骨蔵器の上部に立つ梵字碑は自然石（安山岩）で、碑面の上部にキリク（弥陀）、サ（観音）、サク（勢至）の阿弥陀三尊を表す種字、その下に「正平八年八月十七日、施主敬白」の銘文が刻まれている。正平8年は西暦1353年で、南北朝時代にあたる。当時、本地域では上野国新田氏一族の大井田氏など越後南朝が活躍していた時期である。また、新潟大学解剖学教室の小片保氏の鑑定により、中に納められていた人骨は屈強な壮年と熟年男子、計2体の火葬骨であることが分かっている。



珠洲焼 壺

この人骨の主について、立教大学の中川成夫氏は羽根川郷の在地領主で、大井田氏の流れをくむ羽川氏の武将と推定している。正平7年の夏、新田義宗に従った大井田氏や羽川氏などの南朝勢は、長岡市の蔵王堂や南蒲原郡大面庄まで進出して北朝軍と戦っており、この時に戦死した羽川氏の男子を供養するため、一周忌の正平8年に供養塔を立てて骨壺を埋納したという考えである。なお、自然石を利用した同様な梵字碑が市内川西地区に数多く残されており、その紀年銘は南朝年号のものが最も多いと言われている。

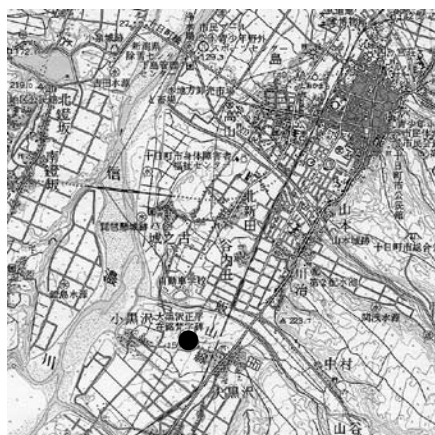
吉岡康暢氏は、紀年銘をもつ梵字碑の下に埋納されていた本資料を壺T種B I 2類に分類し、珠洲焼編年の中でIV 2期に位置付け、暦年代基準資料のひとつとして例示している。上部の梵字碑と合わせて、本地域における南北朝時代の歴史を物語る貴重な資料である。

参考文献

佐野良吉 2003「大黒沢・正平在銘梵字碑」『妻有郷の文化財』週報とおかまち社

十日町市博物館編 1982『妻有の文化財』

吉岡康暢 1994『中世須恵器の研究』吉川弘文館



梵字碑の位置（●印）



梵字碑の現況



梵字碑の復元模型



碑面の拓本

IV 博物館友の会

博物館友の会は博物館開館に先立って昭和54年に発足し、会員は668名（平成30年2月現在）である。現在、植物・古文書・いしぶみ・歴史・方言・考古・近代史（世界遺産を学ぶ会）・きもの・民俗の9つの研究グループが、独自の研究活動を行っている。今年度の主な活動は以下のとおりである。

4月8日(土) 平成29年度総会（会場：特別展示室）

記念講演会「佐渡金銀山 世界遺産登録への活動」

講師：池田 哲夫氏（新潟大学名誉教授、佐渡を世界遺産にする新潟の会会長）

5月13日(土) 火焰128号発行

6月14日(水) 第84回文化財めぐり

“越中八尾伝統の祭を訪ねて～おわら風の盆 哀愁の風が吹く～”

参加費7,000円 参加者43名

7月1日(土) 庚申供養祭 会場：特別展示室（雨天のため）

9月9日(土) 火焰129号発行

10月18日(水) 第85回文化財めぐり

“小江戸川越の街並み散策と川越大師喜多院を訪ねて”

参加費8,000円 参加者23名

2月10日(土) 火焰130号発行

2月17日(土)・18日(日) 第69回十日町雪まつり はくぶつかんひろば開設

（伊乎乃庵でのおもてなし、売店、縄文クッキー・甘酒のサービス、雪像、西小学校児童による物品・チンコロ販売など）

ひろば来場者430名

3月10日(土) 研究グループ発表会（会場：特別展示室）

植 物（高橋 勝芳） 新座城山の植物

古 文 書（関谷 久之） 地域史料から見る近世の相撲興行

近 代 史（太 田 玄） 「新宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺跡群

いしぶみ（小堺 哲也） 松之山地域のいしぶみ調査

方 言（登 坂 勉） 方言の運命と文化保護の必要性

歴 史（星 名 寔） 『秋山記行』牧之の足跡を辿る

考 古（菅 沼 亘） 野首遺跡の土器を科学の目で見ると

き も の（田村 邦夫・羽鳥 勝男） 十日町のマジョリカ御召

（黒田 朋美）



平成29年度総会



第85回文化財めぐり



庚申供養祭

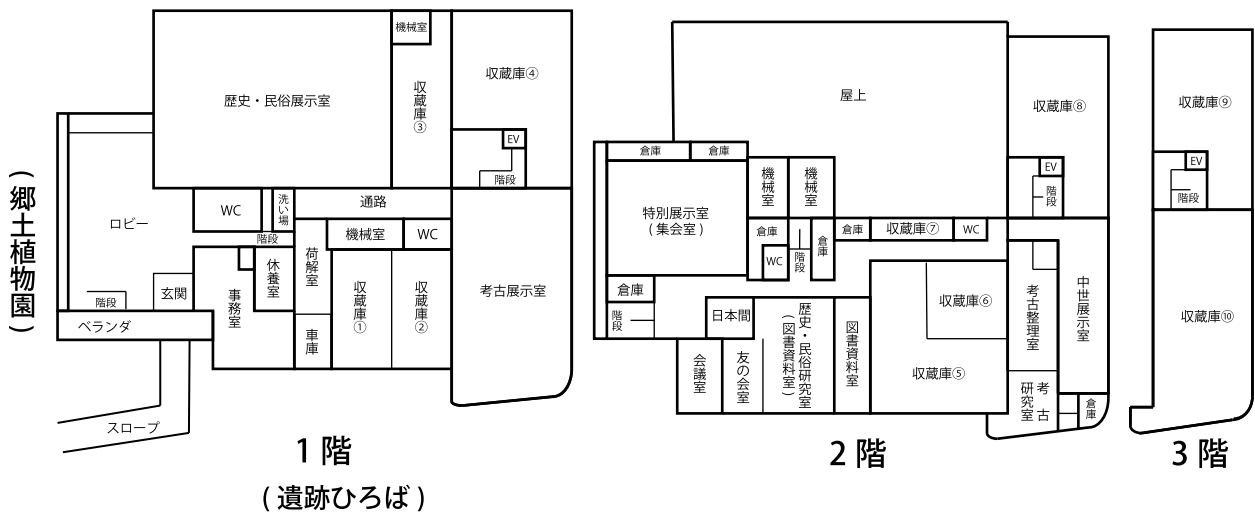
附編 これまでに開催された博物館講座

年 度	テーマ・日時・演題・講師（敬称略、所属は当時）
昭和60	十日町を知る ① 6/12 「考古学から見た十日町」阿部 恭平（十日町市博物館 学芸員） ② 6/28 「信濃川と河岸段丘－十日町の地勢－」仲野 浩平（津南中学校 教諭） ③ 7/9 「十日町織物の歴史と文化」佐野 良吉（十日町織物工業協同組合 参与） ④ 8/30 「十日町の文化財と織物工場視察」佐野 良吉（十日町織物工業協同組合 参与） ⑤ 9/10 「子供と民俗行事」駒形 颯（川西高校 校長） ⑥ 10/8 「十日町の雪の記録から（雪の科学－十日町の雪の特徴－）」渡辺 成雄（林業試験場十日町試験地 主任） ⑦ 11/19 「雪処理の科学技術－雪国の今日と明日－」栗山 弘（科学技術庁国立防災科学技術センター雪害実験研究所） ⑧ 12/3 「学校教育と博物館」竹内 俊道（十日町市博物館 学芸員）
昭和61	十日町を知るⅡ ① 4/22 「博物館と学校教育」竹内 俊道（十日町市博物館 学芸員） ② 5/9 「越後縮資料は語る」滝沢 秀一（十日町市博物館 調査研究員） ③ 5/21 「十日町の城跡」丸山 克巳（十日町市史編さん室 主査） ④ 6/10 「十日町織物の歴史と現況－織物工場視察－」佐野 良吉（十日町織物工業協同組合 参与） ⑤ 7/9 「信濃川の水害と治水」須藤 重夫（十日町市史編さん委員） ⑥ 8/29 「秋山の民具と河岸段丘－津南方面視察－」仲野 浩平（津南中学校 教諭） ⑦ 9/4 「昆虫の世界」滝沢 伸介（日本アジア虫の会） ⑧ 11/5 「雪国の生活 今と昔」渡辺 成雄（前林業試験場十日町試験地 主任）・駒形 颯（川西高校 校長）・星名 甲子郎（雪と生活研究会 幹事長）
昭和62	自分たちの住む町を知ろう ① 6/27 「武士の戦いと日常（上杉時代）の妻有」－城館跡を訪ねてⅠ－丸山 克巳（十日町市史編さん室 主査） ② 7/11 「新田一族の進出と妻有地方の中世」佐野 良吉（十日町市史編さん委員会 副委員長） ③ 7/25 「遺跡が語る大昔のくらし－原始から古代へ－」大島 伊一（十日町市文化財保護審議会 委員） ④ 8/1 「幕藩体制と妻有の村々」須藤 重夫（十日町市史編さん委員会 近世史部会長） ⑤ 8/8 「妻有の台地はどのようにしてできたか－信濃川と河岸段丘の形成－」仲野 浩平（津南中学校 教諭） ⑥ 8/29 「村と庄屋と庶民たち」上村 政基（十日町市史編さん委員会 近・現代史部会長） ⑦ 9/5 「大井田氏とその周辺－城館跡を訪ねてⅡ－」佐野 良吉（十日町市史編さん委員会 副委員長）・丸山 克巳（十日町市史編さん室 主査） ⑧ 9/19 「会津戦争と妻有の人々」金子 幸作（川西町教育委員長）
昭和63	妻有・十日町地方の心をさぐる ① 5/14 「自然の中の神々－自然と人々－」桜井 徳太郎（十日町市史監修者・駒沢大学 学長） ② 5/21 「妻有地方の野仏たち－人々の願い①－」上村 政基（十日町市史編さん委員・文化財保護審議会 委員） ③ 5/28 「妻有地方への仏教の広がりに－人々の願い②－」竹内 道雄（十日町市史編さん委員長・愛知学院大学 教授） ④ 6/11 「村の神さま－人々の願い③－」駒形 颯（十日町市史編さん委員・文化財保護審議会 委員） ⑤ 6/18 「村の中の相互扶助－暮らしと助け合い①－」滝沢 秀一（日本民俗学会 会員・十日町市史編さん調査員） ⑥ 6/25 「飢饉の中の救世主－暮らしと助け合い②－」本山 幸一（十日町市史編さん調査員・中越教育事務所 指導主事） ⑦ 7/2 「妻有地方の教育のあけぼの－教育と文化①－」佐野 良吉（十日町市史編さん副委員長・文化財保護審議会 委員） ⑧ 7/9 「戦後の文化を育んだ人々－教育と文化②－」田村 喜一（十日町市博物館協議会 副委員長・市史編さん調査員）
平成元	妻有の人物史Ⅰ ① 5/27 「坂下門外で斃れた勤皇の志士 河本杜太郎（正安）」佐野 良吉（十日町市史編さん副委員長・文化財保護審議会 委員） ② 6/3 「諏訪山の天狗が庶民の悩みを代弁 服部泰庵」上村 政基（十日町市史編さん委員・文化財保護審議会 委員） ③ 6/24 「麻から絹へ、十日町織物再生の功労者 宮本茂十郎」滝沢 栄輔（十日町市博物館協議会 委員長・市史編さん調査員） ④ 7/8 「江戸の名医、現代漢方医学の祖 尾台良作（榕堂）」須藤 重夫（十日町市史編さん委員） ⑤ 7/22 「学園振興と人材育成に尽した教育者 高橋茂一郎（翠村）」田村 喜一（十日町市文化財保護審議会 委員・市史編さん調査員）
平成2	妻有の人物史Ⅱ ① 7/14 「十日町織物の近代化に尽くした人々 根津五郎右衛門・蕪木八郎右衛門」佐野 良吉（十日町市史編さん副委員長・文化財保護審議会 委員） ② 7/21 「多くの偉材を育てた学徳兼備の高僧惟寛和尚をとりまく人々」渡辺 賢一（円通寺 住職） ③ 7/28 「江戸相撲の名行司木村瀬平と幕末の相撲界」田村 喜一（十日町市文化財保護審議会 委員・市史編さん委員） ④ 8/4 「日本三竹の1人と称された竹画の巨匠木村雪翁と大肝煎・関口家」上村 政基（十日町市文化財保護審議会 委員・市史編さん委員） ⑤ 8/11 「近世妻有の俳諧の系譜をたどる 根津桃路・上村山之・青山幽庵」須藤 重夫（十日町市史編さん委員）
平成3	時間（とき）の軌跡をたずねて ① 7/13 「中世編 戦乱と武士（もののふ）たち－妻有の中世－」山田 邦明（東京大学史料編纂所 所員） ② 7/20 「古代編 古代史のなかの越後と妻有」小林 昌二（新潟大学人文学部 教授） ③ 7/28 「原始編 縄文の生活様式－適応と創造－」渡辺 誠（名古屋大学文学部 教授）
平成4	雪の中の暮らしを考える ① 8/22 「雪の科学と雪害の防止」中村 勉（長岡雪氷防災研究所 所長） ② 8/29 「雪国の風土と文化」高橋 実（小千谷高校 教諭） ③ 9/5 「雪とともに生きる暮らし」鈴木 哲（新潟大学工学部 教授）
平成5	戦国乱世の人物像 ① 8/7 「戦国時代の妻有」山田 邦明（東京大学史料編纂所 所員） ② 8/14 「描かれた中世－洛中洛外図の中の人々－」石田 尚豊（聖徳大学 教授） ③ 8/21 「中世越後の豪族たち」阿部 洋輔（新発田高校 教諭） ④ 8/28 「戦国大名とはなんだったのか」藤木 久志（立教大学 教授）
平成6	絵図面が語る郷土の歴史 ① 6/4 「地図や絵図から歴史を読む」青山 宏夫（新潟大学 助教授） ② 6/11 「絵図面に見る山の論争」木村 秀彦（柏崎農業高校・高柳分校 教諭） ③ 6/18 「村絵図から見た河岸段丘の開発」松永 靖夫（元三条高校 教諭）
平成7	太平記からの贈物－信濃川中流域の中世－ Ⅰ 学習ツアー 6/8～9 「越後から鎌倉へ－新田義貞の鎌倉攻めを追う－」佐野 良吉（十日町市史編さん委員） Ⅱ 史跡探訪 7/22 「関東への道－街道と城跡を訪ねて－」丸山 克巳（十日町市史編さん室 室長補佐） Ⅲ 講座（講義）① 8/5 「越後の新田一族－その活躍と悲劇－」赤澤 計眞（新潟大学 教授） ② 8/12 「中世の武士（もののふ）たち－戦いのありさま－」山田 邦明（東京大学史料編纂所 助教授） ③ 8/19 「中世の精神世界へ①－佛像・祈りのかたち－」西川 新次（慶應義塾大学 名誉教授） ④ 8/26 「中世の精神世界へ②－念仏・遊行の聖と民衆－」大橋 俊雄（日本文化研究所 講師）
平成8	縄文の技とこころ ① 7/14 「縄文からのメッセージ－魅惑の真脇びと－」加藤 三千雄（能都町真脇遺跡展示室） ② 7/28 「縄文心象－日蝕土器の系譜－」武居 幸重（諏訪縄文文化研究会） ③ 8/11 「縄文生活の再現－実験考古学入門－」楠本 政助（石巻考古学研究所） ④ 8/25 「縄文人の共同性」後藤 和民（創価大学教授）
平成9	十日町市史を読むⅠ－江戸時代の社会と人々－ ① 9/13 「村の掟（おきて）－村決でみる盗みへの制裁－」本田 雄二（長岡高校 教諭） ② 9/20 「善光寺街道と松之山街道」桑原 孝（十日町市史編さん委員） ③ 9/27 「縮間屋と奉公人」杉本 耕一（新潟高校 教諭） ④ 10/4 「妻有俳諧の先駆者たち－上村山之と根津桃路－」須藤 重夫（十日町市文化財保護審議会 委員） ⑤ 10/11 「飢饉と村の生活－農民たちの危機管理－」本山 幸一（十日町市史編さん委員） ⑥ 10/18 「日記にみる農家の一年」松永 靖夫（農学博士） ⑦ 10/25 「山の利用と紛争－六箇村の会合－」木村 秀彦（堀之内高校 教諭）
平成10	十日町市史を読むⅡ－近・現代の諸相－ ① 7/25 「自由民権運動と妻有の風土」本間 惇一（新潟県政記念館 館長） ② 8/1 「十日町産地は大火の危機をどのように克服したか－染織学校の設立と中村喜一郎先生－」佐野 良吉（十日町市文化財保護審議会 委員） ③ 8/8 「はくばく線への長い道のり－鉄道誘致運動の苦闘－」上村 政基（十日町市文化財保護審議会 委員） ④ 8/22 「雪国のこどもたち－わらべ歳時記－」駒形 颯（新潟県民俗学会 会長） ⑤ 8/29 「娯楽の王様・映画と若者」田村 喜一（十日町市文化財保護審議会 委員）

年 度	テーマ・日時・演題・講師（敬称略、所属は当時）
平成11	十日町市史を読むⅢ－原始・古代・中世の十日町－ ① 7/24 「火焔土器の時代－笹山遺跡を中心に－」 小熊 博史（長岡市立科学博物館） ② 7/31 「古代の人々の暮らし」 高橋 勉（新井市教育委員会） ③ 8/7 「越後の中世考古学と妻有郷の遺跡」 鶴巻 康志（新発田市教育委員会）
平成12	縄文研究最前線－縄文時代はここまでみてきた－現代人のための縄文講座－ ① 7/29 「縄文人の住環境－縄文人の住居を調べる－」 荒川 隆史（財・新潟県埋蔵文化財調査事業団 主任調査員） ② 8/5 「縄文時代の生活復元－縄文人の暮らしを見つめる－」 渡辺裕之（新潟県立歴史博物館主任学芸員） ③ 8/12 「縄文世界の精神風土－縄文の記憶を追って－」 原田 昌幸（文化庁美術工芸課 文化財調査官） ④ 8/19 「縄文人の交流と交易－奥三面から見てきたこと－」 高橋 保雄（朝日村奥三面遺跡調査室 係長）
平成13	モノと暮らしの知恵を学ぶ－道具と技術を考える－ ① 7/28 「石の利用法－石器と石製品－」 前山 精明（巻町教育委員会 学芸員） ② 8/4 「民具と道具」 久保 禎子（一宮市博物館 学芸員） ③ 8/11 「縄文時代の道具箱」 宮尾 亨（新潟県立歴史博物館 学芸員） ④ 8/18 「縄文の工芸技術」 小柴 吉男（三島町文化財専門委員）
平成14	道・人と地域をつなぐもの－地域と文化の交流を考える－ ① 7/27 「善光寺街道をゆく人々」 丸山 克巳（前十日町情報館長） ② 8/3 「織物技術の伝播を追って」 坂本 育男（福井県立博物館 学芸員） ③ 8/10 「塩の道を歩く」 土田 孝雄（糸魚川市文化財保護審議会 委員） ④ 8/17 「海上の道－交易と交流－」 藤本 強（國學院大学 教授）
平成15	時の記憶を手かりに－資料から歴史を読み解く－ ① 7/26 「仏像が語りかけるもの－その心とかたち－」 川村 知行（上越教育学 助教授） ② 8/2 「古文書から見えてくること」 本井 晴信（新潟県立文書館専門文書 研究員） ③ 8/9 「その後の大井田氏を追って」 佐野 良吉（新潟県民藝協会 会長） ④ 8/23 「石佛・石塔の分布は語る－地域の信仰と歴史－」 渡辺 三四一（柏崎市立博物館 学芸員）
平成16	地域をつなぐ物語－郷土の歴史と文化を訪ねて－ ① 7/31 「中里編 桔梗原の開田－庄屋・村山家の人々－」 村山 詔平（中里地域開発㈱ マネージャー） ② 8/7 「十日町編 縮門屋の台所事情」 丸山 克巳（十日町市文化財保護審議会 委員） ③ 8/21 「川西編 板碑は語る－中世の世界－」 千々和 到（國學院大学 教授） ④ 8/28 「松代・松之山編 松代・松之山の歴史散歩」 鈴木 栄太郎（上越市史編さん室 専門員）
平成17	地域をつなぐ物語Ⅱ－郷土の歴史と文化を訪ねて－ ① 7/23 「新市域の自然と景観－この素晴らしい大地－」 井上 信夫（十日町市文化財保護審議会 委員） ② 7/30 「新市域の街道と山城－古い歴史を刻む大地－」 丸山 克巳（十日町市文化財保護審議会 委員） ③ 8/6 「川西・中里の文化財－現地見学－」 星名 寔（十日町市文化財保護審議会 委員） ④ 8/20 「松代・松之山の文化財－現地見学－」 鈴木 栄太郎（十日町市文化財保護審議会 委員）
平成18	災害の歴史から郷土を学ぶ ① 7/29 「松之山の地すべり－大地が動く－」 村山 悦夫（松之山教育事務所社会 教育指導員） ② 8/5 「十日町の大火始末記－焦土から立ち上がる－」 佐野 良吉（郷土史研究家） ③ 8/19 「日本の大地震と郷土の人々－大地が震える－」 須藤 重夫（郷土史研究家）
平成19	魚沼を学ぶ ① 7/21 「魚沼の文化交流を探る－鈴木牧之の交友から－」 貝瀬 香（鈴木牧之記念館 学芸員） ② 7/28 「白の世界に魅せられて－富岡惣一郎と魚沼－」 高石 真理子（トミオカホワイト美術館 学芸員） ③ 8/4 「魚沼の大地と火焔型土器－故郷の縄文時代－」 石原 正敏（十日町市博物館 学芸員）
平成20	魚沼を学ぶⅡ ① 7/19 「原始の魚沼－縄文時代を中心に－」 石原 正敏（十日町市教育委員会） ② 7/26 「古代の魚沼－古墳時代を中心に－」 安立 聡（南魚沼市教育委員会） ③ 8/2 「中世の魚沼－魚沼地方の中世城館跡の特徴－」 鳴海 忠夫（新潟県考古学会 会員） ④ 8/9 「魚沼楽(学)のススメ」 佐藤 雅一（津南町教育委員会）
平成21	大河ドラマ「天地人」を学ぶ ① 7/4 「考古学的に見た坂戸城跡－居館跡を中心として－」 藤原 敏秀（南魚沼市教育委員会社会教育課） ② 7/11 「史料から探る直江兼統の妻おせん」 田中 洋史（長岡市立中央図書館文書資料室） ③ 7/18 「会津120万石と「直江状」」 福原 圭一（上越市総務課公文書館準備室）
平成22	新潟県の考古学最前線 ① 7/3 「新潟県の縄文時代遺跡－近年の発掘調査成果を中心に－」 渡邊 裕之（新潟県教育庁文化行政課） ② 7/10 「弥生時代研究の現在(いま)」 古澤 爰史（阿賀野市教育委員会生涯学習課） ③ 7/17 「越後で古墳が造られたころ－魚沼地方の古墳人(びと)の暮らし－」 尾崎 高宏（財・新潟県埋蔵文化財調査事業団） 考古資料からみた十日町市の歴史 ④ 9/18 「縄文時代① 遺跡の調査からわかる縄文人の暮らし－前・中期を中心に－」 石原 正敏（十日町市博物館 学芸員） ⑤ 10/2 「中世 十日町に武士がいたころ－中世の人々の暮らし－」 菅沼 亘（十日町市博物館 学芸員） ⑥ 10/16 「縄文時代② 土の器を作り始めた頃の十日町－久保寺南遺跡を中心に－」 笠井 洋祐（十日町市博物館 学芸員）
平成23	新潟県の考古学最前線Ⅱ ① 7/2 「発掘が語る古代の越後・佐渡」 春日 真実（財・新潟県埋蔵文化財調査事業団） ② 7/9 「新潟平野の舟運から古代・中世の流通を復元する－近年の研究成果から－」 鶴巻 康志（新発田市教育委員会生涯学習課） ③ 7/16 「越後における肥前陶磁器の流通」 安藤 正美（見附市教育委員会教育総務課）
平成24	郷土の遺産Ⅰ 越後縮 ① 6/16 「越後縮の歴史」 竹内 俊道（前十日町市博物館長） ② 6/23 「御用縮の世界－受注から納品まで－」 丸山 克巳（十日町市文化財保護審議会 委員） ③ 6/30 「越後縮と江戸時代の麻布産地」 吉田 真一郎（近世麻布研究所）
平成25	郷土の遺産Ⅱ 自然 ① 6/15 「段丘に記録されている自然災害を考える」 卜部 厚志（新潟大学災害・復興科学研究所 准教授） ② 6/22 「雪里・十日町市の特徴的な昆虫たち」 鶴 智之（越後松之山森の学校キョロロ 研究員） ③ 6/29 「多雪地の植物たちの多様な生き方とそのめぐみ」 小林 誠（越後松之山森の学校キョロロ 研究員）
平成26	郷土の遺産Ⅲ 石仏 ① 6/14 「下越の石仏と民俗行事」 大楽 和正（新潟県立歴史博物館 研究員） ② 6/21 「中越ぶらり石仏探訪－ぶらり出かけ、めぐりあった路傍の石仏あれこれ－」 桑原 和位（つまり石仏の会 会員） ③ 6/28 「大光寺石と石仏」 大坪 晃（新潟県石仏の会 会員）
平成27	郷土の遺産Ⅳ 火焔型土器 ① 6/13 「科学の目で見る火焔土器」 宮内 信雄（十日町市博物館 調査研究員） ② 6/20 「火焔型土器のつくり方」 宮尾 亨（新潟県立歴史博物館 専門研究員） ③ 6/27 「美術から見た縄文土器－火焔型土器の登場－」 鈴木 希帆（東京国立博物館 アソシエイトフェロー）
平成28	郷土の遺産Ⅴ 野首遺跡土器の魅力 ① 6/11 「千曲川流域の土器のお手本－長野県から見た野首遺跡出土土器－」 寺内 隆夫（長野県立歴史館 上席学芸員） ② 6/18 「火焔土器と野首遺跡」 寺崎 裕助（新潟県考古学会 会長） ③ 6/25 「利根川上流域から見た野首遺跡中期土器群」 山口 逸弘（公財・群馬県埋蔵文化財調査事業団 上席専門員）
平成29	郷土の遺産Ⅵ 雪 ① 6/10 「北越雪譜を著した鈴木牧之」 貝瀬 香（南魚沼市図書館） ② 6/17 「北越雪譜に見る雪国の暮らし」 笛木 孝雄（南魚沼市文化財保護審議会 会長） ③ 6/24 「雪国の行事と食文化」 大楽 和正（新潟県立歴史博物館 主任研究員）

（作表：田村 薫）

施設概要



<建物の床面積>

1 階	1,855 ㎡
2 階	1,439 ㎡
3 階	458 ㎡
その他	56 ㎡
合計	3,808 ㎡

<屋内施設>

歴史・民俗展示室	476 ㎡
考古展示室	278 ㎡
中世展示室	115 ㎡
特別展示室(集会室)	181 ㎡
展示室 計	1,050 ㎡

収蔵庫①	79 ㎡
収蔵庫②	79 ㎡
収蔵庫③	104 ㎡
収蔵庫④	191 ㎡
収蔵庫⑤	160 ㎡

収蔵庫⑥	69 ㎡
収蔵庫⑦	23 ㎡
収蔵庫⑧	164 ㎡
収蔵庫⑨	164 ㎡
収蔵庫⑩	247 ㎡
収蔵庫 計	1,280 ㎡

事務室・休養室	123 ㎡
歴史・民俗研究室・資料室	143 ㎡
考古研究室・整理室	115 ㎡
会議室・日本間・友の会室	94 ㎡
その他	1,003 ㎡
共用部 計	1,478 ㎡

<屋外施設>

郷土植物園	3,010 ㎡
遺跡ひろば	3,008 ㎡



博物館の外観



遺跡ひろば(昭和63年開園)



郷土植物園(昭和61年開園)

<平成29年度 博物館職員>

館長	佐野 誠市
副館長	石原 正敏(学芸員)
業務係長	山田 和志
主査	菅沼 亘(学芸員)
〃	村山 歩
〃	笠井 洋祐(学芸員)
〃	大滝 孝子
〃	阿部 敬(学芸員)
主任	黒田 朋美
〃	若月 辰則(技師)
主事	田村 典子

嘱託職員	佐野 芳隆
〃	田村 薫(調査研究員)
臨時職員	引間 佳子
〃	春川 奈嘉子
〃	宮澤 早記

十日町市博物館 年報 第4号

編集・発行：十日町市博物館

〒948-0072 新潟県十日町市西本町1-382-1 TEL:025-757-5531 / FAX:025-757-6998
 URL: <http://www.tokamachi-museum.jp> / e-mail: museum.10@city.tokamachi.lg.jp
 発行日：平成30年(2018)3月30日 印刷：株式会社 滝沢印刷